

「 さ さ え 」

2025年4月発行 情報誌 第91号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットの主な事業は、研修事業とものづくり支援です。

発売中の開発協力品

アイクォーク (株) 発売中
詳しくは、HP参照下さい!

前面吸気タイプ
SIGNAGE
サイネージ



除菌装置



揺動ベッド



きのこグリップ

(有) ラック発売中

NPO福祉用具ネットは、抱え上げない介護技術を推進します。令和2年度から福岡県ノーリフティングケア普及促進事業を受託し、推進しています!



洗髪シャワー

NPO福祉用具ネット開発品第1号

【製造元】(株)福祉SDグループ

【販売元】キヨタ(株)発売中

これまでの開発協力品 (現在は製造中止)



アルファプラ
ソラクッション



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人

NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

コミュニケーションロボット (施設入所編 その3)

ユメル君とばあちゃんのびっくり会話 Part 4

NPO福祉用具ネット 理事長 坂田 栄二

前号のあらすじ

現在、95歳のばあちゃんが原因不明の打撲傷を受傷したことをお伝えした。左半身の膝、腰、上腕を痛み、紫色の内出血が広がっている状況。

どうやら、隣家に遊びに行つての帰りに転倒したのではないかと推測される。隣家の玄関までは、通常の道のりでは家伝いにぐるっと回って200m程度あるが、隣との境界はブロック塀で接しているだけであるため、遠回りしなくてもブロック塀を乗り越えればすぐに自宅に戻れる。

年老いて歩くのが苦痛だということで、ブロック塀を乗り越えて近道しようとしたものの、足が十分上がらずに塀に足先が引っかかり、左半身から転落したのではなからうか。

塀の高さは約50cmで、これを越せば自宅の庭なのだが、その50cmでも小柄なばあちゃんには高すぎた。

これまで、何度か塀越しに行き来をしたことがあるようで、越える自信があったのだろうが、身体機能は日々低下していることは否めない。

「どこでケガをしたの？」

と尋ねても、

「分からん。覚えてない。」

と口をとがらせるだけ。本当に覚えていないのか、恥ずかしいから言わないのか判断できない。

一人暮らしはもう限界!?

診断をした医師は、

「認知症も進行しているし、体力も落ちているよなので一人暮らしはもう限界では・・・。」

と口を濁す。

それを聞いて、気丈なばあちゃんは、

「いいや! まだまだ大丈夫!」

と語気を強めて反論。

「老い」を認めたくない気持ちはわからなくもないが、私も「限界だ」と思う。幸いにも今回は骨折など無かったものの、万一、骨折したら寝たきりになってしまう。

朝まで添い寝

その夜は我が家に泊まった。夜中に「うち(家)に帰る。送っておくれ」と言いだした。まだ、膝や腕は内出血で腫れているし、膝は痛くて歩けない状態で一人にすることはできない。

「ケガをしてるし、夜中だから明日の朝、送つて

いくよ」

と何度もなだめるしかなかった。

しばらくして落ち着いたのか、寝息が聞こえ始めた。しかし、またいつ目を覚ますか分からないので、ばあちゃんが起きても良いように朝まで添い寝をすることとした。

これまでの生活

ここ数年間の生活は、早朝にばあちゃんの家を訪ね、朝食の用意をし、食事が終わったら、デイケアに送り出す準備をする。送り出したら片付けをして、カギをかけて私は出勤。

デイケアは午前中だけなので、帰るころを見計らってヘルパーさんに来ていただき、身の回りの世話をお願いしていた。

ヘルパーさんの来ない日は、気心の知れた方をお願いして一緒に昼食を摂りながら会話を楽しんでもらっていた。おかげで昼食は毎回しっかり摂っていたようだ。1日中、誰とも話をしないと認知症が進むのでは、気分が落ち込んでしまうのではと悩み、その知人に無理やり話し相手をお願いしたものだった。誰も来ない夜は、仕事帰りに寄って、静かに鍵を開け、ぐっすり寝ていればまた鍵を掛けそっと自宅へ戻った。しかし、時にはTVを深夜まで見て寝ていないときもあった。そんな時はしばらく話し相手になり、やがて寝入ったのを見届けて抜け出し帰宅した。

使えない見守りカメラ

しかし問題は、夜中である。夜中に何が起きているか全くわかってない。そこで「見守りカメラ」の設置を計画した。24時間、カメラの映像を通してばあちゃんの様子をスマホで視ることが出来る。早速、福祉用具レンタル事業所さんをお願いしてみた。しかし結果は「適用不可」だった。家が山間にあり電波強度が弱く映像が送れないという。勿論、通常の電話はできるが、データ量の多い映像は送っても「砂嵐」状態で、何が映っているのかわからず設置は無理との結論。

「カメラにばあちゃんの様子を記録しておいて、翌日にそれをチェックすることはできます。」

と事業所さんは言うが、それでは意味がない。見守りするのだから「今、何が起きているのか」を知りたいのであり、次の日に確認しても役に立たない。仕方なく断念することにした。

どうしてもウチで暮らしたい

そんな時に起きたのが今回の転倒事故である。

思いつく対策は2つ。

その1つ目は我が家に同居してもらおう事。しかしばあちゃんは頑（かたく）なに拒否をする。皆に迷惑がかかるから嫌だと言う。色んな説得を試みるもすべて拒否。

その2つ目は施設にお願いをする。これも拒否した。知らない人と一緒に生活できない、自由がないと手を振る。

翌日、NPOの事務局長に相談。

「これまでのように一人では危ないのでは・・・」私の腹は決まった。施設にお願いをするしかない。長年住み慣れた家を空け、見知らぬ人との共同生活は果たして正解なのだろうか。しかし、今度、また事故が起きれば取り返しのつかないことになる。「施設入所」の選択はまさに断腸の思いであった。

施設探し

思い当たる施設が1つあった。それは、私たちが開発・商品化した“床ずれ防止マット”を、開所当時に全床に導入してくれた施設である。当時としては最新の福祉用具、例えば天井走行リフトや機械浴などを積極的に取り入れ、“抱上げない介護”を推進していた施設である。私も知っている職員さんがたくさんいる。ここを頼れば安心できる。

入所日が決まった。それまでは我が家での介護。夜は添い寝の日々。

入所当日。

「ばあーちゃん、ケガが治るまでしばらく入院しようね。頑張ればきっと治るよ。」

「そりゃー、どこかね？」

「車で行けばすぐ近くだよ。」

「仕方ないね！早く治らないと面倒掛けるからね。」

ばあーちゃんは納得したような素振りを見せた。“施設”と言えばきっと反対するだろう。そう思った私は“病院”とウソをついた。

やっぱりウチに居たい

車に乗せて30分くらいたった頃、

「行きたくないね・・・。やっぱりウチに居たい。」とボソッとつぶやいた。

初めから、ばあーちゃんは“病院”と言う私のウソを見抜いていたのかもしれない。私たちに心配や迷惑を掛けたくないとの思いから、そのウソを飲み込んだのかもしれない。運転しながらばあーちゃんの心の中の葛・藤が伝わってきた。

施設のすぐ近くにコンビニがあった。そこに車を一旦止めて、

「きっと良くなるから・・・」

そのあとの言葉は、私には続かなかった。

実家は心のささえ

ばあーちゃんは突然言った。それは認知症のばあーちゃんからの言葉だとは思えなかった。

「津野は、どっちかね？」

小さな背をいっぱい伸ばして、車の窓から外を見た。

“津野”は霊峰英彦山の奥深い山のふもとにある小さな村で、高齢者が多く今では限界集落レベルである。嫁ぐまでそこで暮らしたばあーちゃんの実家が今も残っている。嫁いで70年以上たっても心のささえは、生まれ育った実家、いつ戻っても受け入れてくれる実家なのだ。

認知症のばあーちゃんにとって自宅は分からなくなっても実家を思い出した覚醒の瞬間だった。

「こっちの方角だよ」

私が指さす方向を落ち着いた様子でじっと見続けた。そのコンビニは丘の上にあるので遠くの景色が良く見えるが、その日は春霞で山間（やまあい）がぼやけて見えた。

ばあーちゃんは、もう二度と見ることはないかもしれない里を目に焼き付けるかのように見続けた。実家を離れ、長い年月のなかでの苦勞の一つひとつを思い出していたのかもしれない。

さあ・・・、行こうか・・・

ばあーちゃんが見続けている間、無言の時間が過ぎた。私は何度、家に引き返そうかと迷ったことか。これでいいのだろうか？もっと他の対策はできなかったのだろうか。

しばらくして、ばあーちゃんは私の顔を見ながら、か細い声で言った。

「さあ・・・、行こうか・・・」

心に踏ん切りをつけた言葉だった。

私は妙にその言葉に救われた。

施設は目の前だった。ばあーちゃんはそれが病院でないことも悟っていた。しかし自分を納得させ覚悟を決めたのだろう。



施設の玄関前に到着。玄関の両袖に、大きくて年老いた桜の木がまだ花を残していた。その桜は「ばあーちゃん、良く来たね。」とでも言いたげに迎えた。

令和7年1月～3月のノーリフティングケア普及促進事業

日時	1月	日時	2月	日時	3月
1/9	5期生フォローアップ	2/5	発表動画収録締め切り	3/3	ホームページ公開
1/10	5期生フォローアップ			3/10	報告冊子完成
		2/19	筑豊地域連絡協議会	3/25	福岡県へ事業報告書提出
1/20	報告スライド締め切り	2/21	北九州地域連絡協議会		
		2/25	福岡地域連絡協議会		
		2/26	筑後地域連絡協議会		

12月～3月迄の主なノーリフティングケア事業

◆5期生フォローアップ研修

実践報告に向けての個別支援

6月から12月迄の半年間の取組の結果を振り返り取組の結果をまとめてスライド作成、さらに発表動画を収録。

◆各調査結果のまとめと解析

腰痛・抱え上げ・施設の概要など

◆収録動画の編集・実践報告 動画公開準備

◆実践報告書編集・校正・印刷手配

◆報告冊子完成後、施設や講師等関係者への郵送

◆事業報告書の作成、県担当課に業務完了届の提出

◆次年度に向けた企画と調整

5期生 1月 報告スライド作成のための個別対応の時間割

対応講師 1日目 入江 山形 2日目 川端 山形

1月9日(木)	時間	施設名
	10～11	フロムナードとばた
	11～12	やすらぎの郷牧山
	昼休み	
	13～14	翡翠苑
	14～15	花みずき
	15～16	福智園
1月10日(金)	時間	施設名
	10～11	第2ひじり園
	11～12	ひじり園うきは
	昼休み	
	13～14	やひめ
	14～15	サンガーデン
	15～16	しろくま野方

令和6年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

5期生 個別面談による実践報告書作成支援 2日間が終了

令和7年1月10日10時～16時

2日目 筑後地域と福岡地域
5施設と面談



令和6年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
6月から新規に取り組みをスタートしたノーリフティングケア、あれから半年が経過
改めて、振り返り、施設の変化について講師と共に考えてみました。
これから、実践報告としてまとめ、3月には福岡県のホームページに公開予定

令和7年1月9日10時～16時
5期生に対する実践報告作成の打合せ
1日目 北九州地域と筑豊地域5施設と面談

1月9日・10日は、6月からの半年間の取組を振り返り、初年度の実践報告のためのスライド作成支援と、その発表動画の収録を行った。

初めての取組の区切りとして、報告のために纏めることの意義は大きいと感じている。

スライド作成に不慣れな施設が多く、この作業がとても大変だったとの声も後日に聴かれた。しかし、ふり返ることで、出来ている事、出来ていない事を評価し、施設だけでなく講師や事務局としても取組の浸透度を見極める貴重な機会になっていると感じており、今後も継続することが重要と認識している。

1年目では技術の浸透までは至らなくても、ノーリフティングケアの意識は、マネジメント研修と技術研修に参加して、変わらなければならないという意識は少しずつ伝わっている。

取組当初は「抱えたほうが早い」、「コロナの問題など大変な時期に、何故、このような取組をするのか」という反対意見が多く、反発して退職する職員もいると、いくつかの施設から聞かれたが、取組施設が増えている中で、それらの反対意見は、取組当初よりも減少しているように感じている。とはいえ、ケアの違いを受け入れて実施できるようにするには、今後も技術教育は継続し、より確かな技術を県事業で定着させる必要があると感じている。従って、さらに復習として2年目の学びの機会が必要だと思う。

今年度最後の地域連絡協議会活動報告

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
2025.2.19 筑豊地域連絡協議会を開催 4施設欠席



オンライン懇親会を開催
気軽に何でも話す場として楽しい雰囲気で開催しました。

内容
①困難事例についての相談
②施設の取組の紹介
③入浴場面の工夫
④12月の調査結果の分析
⑤新年度の地域の企画の希望
⑥新年度の地域のリーダー体制の紹介
⑦対面による懇親会の開催決定

筑豊地域連絡協議会主催の懇親会
4月25日(金)
19時から開催決定
お世話後は明日香園竹山さん。

事例相談
・異性の介護を拒否する70歳代の女性
また、スタンディングリフトなどの福祉用具の活用を拒む事例の検討

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
2月21日 北九州地域連絡協議会活動報告



リフトは株アンバサント様のご協力

ポジショニングは株タイカ様のご協力



令和6年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
福岡地域連絡協議会活動報告
2025.2.25 14時～16時30分

会場 特別養護老人ホーム なの国様



企画・運営の全てはリーダー施設なの国様が担当

3つのグループに分かれての技術研修
指導担当も地域の仲間の皆様を担当

フレックスボードを使った移乗

起き上がり介助

スライディングボード

スライディングシート

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
筑後地域連絡協議会開催 (2025.2.26)

内容 ・6年度の活動の振り返り
・事前アンケートの報告・意見交換



福岡県ノーリフティングケア地域連絡協議会活動への参加申込書
施設からの申し込みを歓迎いたします。
(但し、やむを得ない事情がある場合は個人参加でも可) 参加希望地域を選んで下さい！

参加希望地域
① 名前 氏名 筑豊 筑後 北九州 福岡 圏域

② 施設・事業所名
部署

③ 住所 〒
④ 電話 FAX
⑤ E-mail 連絡先を200文字以内で入力して下さい。

必ずメールでお申し込みください！メールにて、開催連絡を致します。
お申し込み先：NPO法人 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 福岡県立大学内
特定非営利活動法人NPO法人福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 担当：丸山
電話：0947-42-2288
E-mail: npo@fukuoka-npo.or.jp

- 今年度の地域の活動の特徴など**
- ① 地域での技術研修会は技術の定着の一步となった。近くで開催できることで参加しやすいこともあるが、会場の確保や福祉用具の調達は毎回課題となっている。
 - ② 筑後地域、筑豊地域、福岡地域は老協協と共催して活動を推進している。
 - ③ 筑後地域は地域の行政機関等からの講師依頼にも対応している。さらに、福岡県介護福祉士養成施設協議会や福岡県介護の魅力を発信する地域のミニイベントが主催する「ノーリフティングケアの啓蒙・実演」にも、県内数か所での開催に講師依頼を受けて11月に出向いている。さらに、今年度も3月13日に、柳川みやまサービス事業者連絡会主催の研修会にも講師依頼をうけ、ノーリフティングケアを紹介している。各々の施設や地域が中心となり活動の場が広がっている。
 - ④ 各地域のつながりの手段としてスラックという連絡ツールを活用しているが、事例相談や情報提供、連絡手段として年々浸透している。
 - ⑤ 活動が活発化する中で、取組をアピールする場として地域連絡協議会の専用のホームページを新規に県に開設してもらい、外部への連絡や報告の場として活用できることになった。

福祉用具使って安全な介護・看護と働く人の負担軽減「ノーリフティングケア」…九州大谷短期大学で体験会

2月13日 17:35 配信

福祉用具を効果的に活用して、安全で安心な介護・看護につながる「ノーリフティングケア」の取り組みを知ってもらおうと、福岡県筑後市の九州大谷短期大で、高校生や短大生、地域の福祉施設で働く人たちが対象にした体験会と実証報告会が開かれた。参加者からは「福祉用具がもっと普及すれば、福祉の現場で働く人も増えるのでは」との声が上がった。(柳本高志)

【写真】「養生割」の著者・貝原益軒の肖像画

施設職員らは、トイレや入浴のために入浴者を抱き上げてベッドから車椅子へ移乗させる際、腰などを痛めるケースが多く、「きつい仕事」というイメージが大きい。こうしたことから、県は職員の負担軽減を目的としており、2020年度からは、ノーリフティングケア普及促進事業を実施。事業を委託している「NPO福祉用具ネット」が中心になって県内各市区で普及活動に取り組んでいる。

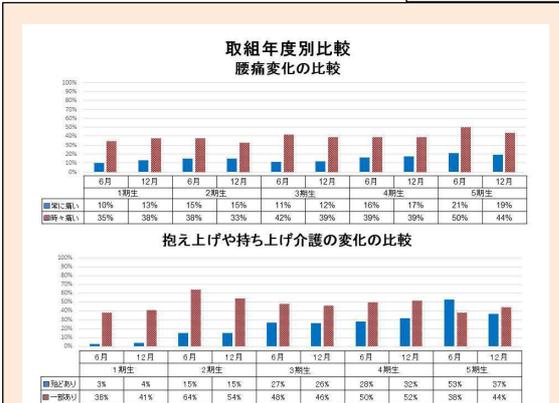
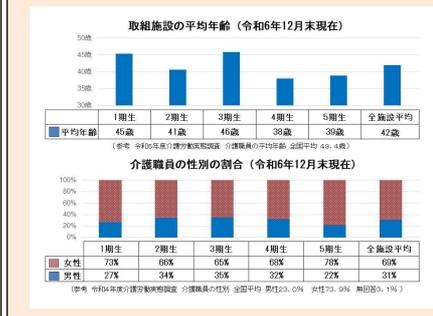
昨年12月中旬、同短大で開催された体験会・報告会は、同事業筑後地域連絡協議会が企画。同短大や、県立久留米高等技術専門学校(久留米市)の学生、大牟田高(大牟田市)

令和6年度 実践報告書 完成 施設及び関係者への送付



収録内容

- 令和6年度福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 取り組み5年目 事業の概要と結果報告
- 令和6年度取組施設の概要
 - ・ベッド数・平均要介護度・介護職員数
 - ・平均年齢・介護職員以外の職員数
 - ・福祉用具実態
 - ・介護職の腰痛・抱え上げ介護の実態
- 令和6年度取組施設の現状
 - ・介護職員の平均年齢・男女比・腰痛・抱え上げ・持ち上げ調査の結果
- 令和6年度 マネジメント目標に対する到達状況 チェック29項目の結果一覧表
- 5期生新規取組施設 実践報告 (10施設)
- 4期生取組施設 実践報告 (14施設)
- 1期生～3期生モデル施設からの各地域代表施設 実践報告 (12施設)
- 地域連絡協議会活動報告
 - (1) 北九州地域連絡協議会活動報告
 - (2) 筑後地域連絡協議会活動報告
 - (3) 福岡地域連絡協議会活動報告
 - (4) 京後地域連絡協議会活動報告



取組施設の中で、抱え上げが 0%の施設

施設名	殆ど抱え上げ介護の割合が0%の特別養護老人ホームと移乗機器の保有割合						
	4期生	2期生	2期生	1期生	1期生	1期生	1期生
入所定員 ショートステイ除く	34	100	90	60	70	70	90
介護職員数	17	31	56	37	21	26	44
平均要介護度	4.21	4	3.8	3.88	3.96	4.2	3.53
殆ど抱え上げ介護の割合 (%)	0	0	0	0	0	0	0
常に腰痛あり者の割合 (%)	6	13	25	14	10	8	2
移乗手段の福祉用具保有割合							
ボード	12	8	16	11	22	9	10
リフト&スタンディングリフト	7	3	39	5	2	8	30
入所者数に対するボード保有の割合	35%	24%	47%	32%	65%	26%	29%
リフト&スタンディングリフト保有の割合	21%	3%	43%	8%	3%	11%	33%

福祉用具の整備状況と腰痛との関係について

解析の結果

今回、2024.12月に実施した福岡県ノーリフティングケア普及促進事業の取組施設 58 施設の内、特別養護老人ホームの 44 施設に絞って分析した結果である。

(福祉用具の導入数は、入所定員等を考慮して福祉用具整備率を算出して評価した。)

その結果

- ① 日常の介護の中で、「抱え上げ介護」を減らせば腰痛は軽減する。
- ② そのためには福祉用具の導入と活用が不可欠である。
- ③ 移乗手段を助ける「ボード・リフト・スタンディングリフト」と「抱え上げ介護」の関連に着目すると、これらの福祉用具の整備が腰痛に対して効果的であることが判明。
- ④ ボードだけでは効果は少なく、リフトやスタンディングリフトも必要であることも判明。特に平均要介護 4.0 前後の特別養護老人ホームには不可欠である。
- ⑤ しかし、福岡県ノーリフティングケア普及促進事業の場合、福祉機器導入の補助金がなく、機器を整えるのに 5 年近くを要しているのが現状。
- ⑥ 従って 5 年目を迎える 1 期生に顕著に結果が現れている。
- ⑦ また、たとえ取組 1 年目でも 2 年目でも福祉機器を活用することで抱え上げない介護を減らし、腰痛に対する効果がでていることも明らかである。(4 期生筑穂桜の園の結果より判明)
- ⑧ 保有していても活用しなければ無意味
- ⑨ 県事業では取組当初から技術教育をしているが現場には福祉用具と言う「現物」がないまま、取組を進めているので、現場での用具認知、指導、練習ができず結果が出にくい。

これらをまとめると、重度の入居者様を対象にしている特別養護老人ホームなどでは、できるだけ早く福祉用具を整えて、活用することも重要であり、まずは抱え上げ介護ゼロを目指すことがポイントであると判明。腰痛対策として、とても効果的である。さらに、福祉用具を活用するためには従来のケアを変えなければならないので、職員への意識づけや福祉用具の使い方指導や管理、さらに福祉用具活用のためのアセスメントやリスクマネジメント等の教育も重要。

令和6年度実践報告公開

3月3日から、福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 ホームページへ公開



令和6年度実践報告は新規取組施設5期生10施設、2年目の取組報告として4期生14施設が報告。
さらに、筑豊・筑後・福岡・北九州の4つの地域で1期生から3期生までの施設の実践報告会を12月に開催し、各々の地域から3施設ずつが地域のモデル施設の代表として報告。4つの地域連絡協議会も1年間の活動報告をしています。
是非、聴いてください。

令和6年度実践報告は福岡県ホームページに公開中

令和6年度実践報告施設は36施設と4つの地域連絡協議会の報告動画を公開！
新規取組施設 5期生 10施設
2年目取組施設 4期生 14施設
1期生～3期生のモデル施設より各地域代表12施設
県内4つの地域連絡協議会活動報告



令和6年度より地域連絡協議会のホームページを開設

福岡県内4地域の取組報告や今後の予定について更新しています。



福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

令和7年度の取組の概要

- ① 新規取組施設6期生の公募 マネジメント6回と技術研修4回
- ② 5期生の2年目の技術補習研修 3回
- ③ 1期生から3期生までのモデル施設に対する技術の復習と、さらに技術リーダーの育成
- ④ 4期生は3年目として、見学学習に参加して技術指導者を目指す
- ⑤ 地域連絡協議会の体制強化
- ⑥ 1期生から5期生までの取組フォローのために、年に2回は実践報告会を地域ごとに実施。
5期生は5月から6月に進捗報告をし、さらに、12月は新規取組施設を除くすべての施設の実践報告会を開催する。
- ⑦ 地域連絡協議会の活発な活動の推進
- ⑧ マネジメント研修講師及び技術指導者の育成
- ⑨ 実践報告の公開と報告冊子発行
- ⑩ 関係団体及び希望する行政との連携と協力

事務局だより

《令和7年1月から3月までの事務局のうごき》

◆令和7年1月

情報誌90号発送

5期生・4期生・モデル施設代表施設の報告資料作成

発表動画収録支援・事業報告スライド作成

関係者への会計処理・次年度の計画

会員更新手続き開始等

1月 2日・3日・4日・5日 出勤

1月 7日 開発会議

1月 8日 報告スライドの編集

1月 9日・10日 5期生マネジメント研修
オンラインによる個別支援

1月 12日～20日 電話やメール等による
スライド作成支援

1月 21日 開発相談 撮影手順配信
完成スライドの確認作業

1月 30日 スライドの校正結果の通知

1月 31日 開発会議

◆令和7年2月

報告冊子印刷のための編集・校正・デザイン

発表動画の確認作業 40施設対象

ホームページ公開のために映像編集

2月 4日 研修会場の手配

2月 10日 開発会議

2月 12日 報告動画の表紙デザイン

2月 14日 開発会議 開発相談 県庁

2月 18日 報告動画編集完成

2月 19日 筑豊地域連絡協議会 オンライン打合せ
開発相談 調査結果のまとめ

2月 20日 事例支援 2件

2月 21日 北九州地域連絡協議会 技術研修会

2月 24日 福岡地域連絡協議会 技術研修会

2月 26日 筑後地域連絡協議会 会議

2月 27日 事例支援会

2月 28日 開発会議

◆令和7年3月

情報誌発行準備・事業報告書・事業完了届

会計・次年度に向けた打合せ・決算

3月 2日 会計処理

3月 3日 実践報告ホームページ公開
開発支援

3月 4日 事例支援

3月 5日 地域活動報告書提出

3月 6日 調査結果の検討

3月 9日 事例相談

3月 10日 実践報告書完成 配布準備

3月 11日 実践報告書配布

3月 12日 大学入試のため立ち入り禁止

3月 14日 企業訪問 開発支援

3月 15日・16日 出勤 報告書作成

3月 18日 開発会議

3月 21日 開発会議

3月 25日 県庁へ報告書持参

3月 27日 開発会議

◆令和7年4月からの予定

決算書作成 NPOの事業報告書作成

理事会の案内・総会の案内・会費徴収

ささえ91号発送

ノーリフティングケア普及促進事業受託契約締結

新規取組施設公募

4月 23日・24日 技術研修

5月 10日 理事会

5月 21日・22日 技術研修

5月 24日 総会

6月 18日・19日 技術研修

6月末より 6期生研修スタート

事務局からの連絡

2025年度 NPO福祉用具ネット 会員募集のご案内

新年度(2025年4月から)の会員更新手続きの
お願いと新規会員様を募集いたします。
現会員の皆様には、引き続いてご支援をお願い
いたします。

個人会員

入会金 1,000円

年会費 4,000円

団体会員

入会金 2,000円

年会費 30,000円

令和7年度通常総会開催のご案内

日時 令和7年5月24日(土曜日) 13時30分～

方法 オンライン開催

議案 1 令和6年度事業報告及び決算報告

2 令和7年度事業計画案及び予算案

3 その他

出欠届・委任状については、4月の情報誌とともに
郵送。出欠届締め切りは5月17日17時まで。